

開講科目名 / Course	老年看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	堀 裕子	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、堀 裕子、中釜 英里佳	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	老年期特有の症状や疾病に伴う健康障害をもつ高齢者の健康問題を取りあげ、生活に及ぼす影響や、生活の質を考えた看護援助を学ぶ。これらの学習を通して、超高齢社会の中で多様な背景をもつ高齢者とその家族を尊重した看護援助について考察する。	
到達目標	1. 老年期特有の症状や健康障害を説明できる。 2. 老年期特有の症状や健康障害が生活に及ぼす影響を説明できる。 3. 老年期特有の症状や健康障害を持つ高齢者と家族の看護援助について説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	01. 高齢者と感染症看護 02. 急性期症状を呈する高齢者の看護 03. 侵襲的治療を受ける高齢者の看護 04. リハビリテーションを受ける高齢者の看護 05. 慢性経過に伴う症状を呈する高齢者の看護 06. 認知症高齢者の看護（1）認知症の理解、認知症ケア・医療保健福祉制度の変遷 07. 認知症高齢者の看護（2）認知症ケア・コミュニケーションの基本 08. 認知症高齢者の看護（3）認知症高齢者と家族への意志決定支援と多職種連携	
その他の授業の工夫	適宜、DVDでの事例視聴を取り入れる。その上で、グループワークを通して、老年期特有の症状や疾病に伴う健康障害をもつ高齢者の援助のあり方を多角的に検討し共有する。また、認知症高齢者とのコミュニケーションのロールプレイを行い、認知症高齢者に寄り添う姿勢を体得する。	
時間外学修	各授業に該当する内容をテキストにて事前学修する（8h）。 授業内で指示した課題をレポートにまとめる（8h）。 授業資料や小テストを事後学修する（6h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験（70%） レポート課題（20%） グループワーク参加の姿勢（10%）	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件	老年看護学概論、老年看護援助論 を修得済みであること。	
その他	講義毎にハンドアウト資料をキャンパススクエアにアップする。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：病院の看護師 堀裕子：病院の看護師 中釜英里佳：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	各看護専門分野における高齢者への実践経験をふまえ、学生の興味関心が高まるように看護介入した事例を取りあげ、解説や事例検討を行う。	